

タウンミーティング（徳田地区） 開催報告

- 日 時 平成 31 年 3 月 25 日（月） 午後 7 時から
- 場 所 徳田公民館 2 階大会議室
- 参加者 徳田地区連合自治会長、古田・高知・徳能出作・御陣家・田滝自治会長、
徳田地区愛護班会副会長、消防徳田分団長、民生児童委員代表、
交通安全協会徳田支部長、老人クラブ徳田支部長
市長 経営戦略部長、危機管理監、危機管理課長、シティプロモーション推進課長
- 傍聴者 24 人
- 次第
 - 1 開会
 - 2 挨拶（徳田地区連合自治会長）
 - 3 挨拶（市長）
 - 4 参加者自己紹介
 - 5 市の主要事業について
 - (1) 主要事業の説明（市長）
 - 6 地域課題①「地域防災対策」について《市提案》
 - (1) 課題等の経過等内容説明（危機管理監、危機管理課長）
 - (2) 意見交換
 - 7 地域課題②「徳田地区の地域づくり」について《地域提案》
 - (1) 地域からの提案説明（徳田地区連合自治会長）
 - (2) 意見交換
 - 8 その他
 - 9 まとめ・閉会
 - (1) まとめ（市長）
 - (2) 挨拶（徳田地区連合自治会長）

○会議録

1 挨拶

【徳田地区連合自治会長】

皆さん、こんばんは。本日は、皆さんお忙しい中ご参加をいただき、感謝申し上げます。また、玉井市長には、このタウンミーティングを設定していただき、感謝申し上げます。

以前は、丹原文化会館で参加者がそれぞれ個人的に意見を述べ、市が回答する方法だったが、今回の方式としては、地域の大きな課題を、皆さんで検討する。地域づくりにも繋がるのではないかと思いますので、ご協力をお願いしたい。

後ろの傍聴の方は、発言できないのでよろしくをお願いしたい。

去年は西日本の豪雨や台風がきて、この地域もかなりの被害がでた。山林の崩壊や、墓地が崩落し、市にもいろいろとやっていただき、応急ではあるが市道の措置もできた。お墓については補助金を 12 月議会に上程をしていただき、この間完成にいたった。迅速な対応をしていただき、まず利用ができるような状態になっている。本当に感謝申し上げます。

今日は徳田地区の地域づくりというので、田滝地区が今年の 10 月から取り組んでいる。群馬県の高崎大学、櫻井常矢教授が、市と委託契約を結んでおり、こまめに来ていただける。非常に要領を得ており、いいお話をされる。徳田地区がやるとなると先生が来てくれると思う。そういうことも頭において今日は、この会を聞いていただいたらと思っている。参加者はご意見なりご要望なり何でもおっしゃっていただきたい。

【市長】

皆さん、こんばんは。本日は年度末が押し迫り、そして食事の時間帯に、このように多くの皆さんに参加をしていただいたことを御礼申し上げます。

また、連合会長をはじめそれぞれの自治会長、役に就いている方、地域の皆さんと一緒に

この徳田、田滝地区を守っていただいていることにも感謝を申し上げる。

私も市民の皆さんとどのように対応していったらいいのかと思い、とにかく手探り状態で今日まで来た。そして今年度、徳田が最後になる。やり方について、もう一度確認をしながら、来年度は全ての校区を回りきろうと思っている。地域の皆さんの声を聴き、それをもって予算に反映できるところは反映していこうということでタウンミーティングがある。

今、行政と地域住民の皆さんとの感覚にズレがないかどうかをチェックさせていただきたいと思っている。財政が豊かであれば皆さんの要望を聞き、実行していけばこれでよし、となるが、実際にはそのような状況にはなっていない。このギャップをどのように埋めていくか。例えば、使用料が受益者負担のない状態で、様々な公共施設が使える状況であるなど、低負担、高福祉というのが今の西条の実態である。できるだけ市民の皆さんの負担を少なくして利便性の良いほうに良いほうにしたのが平成 16 年の合併であった。そのツケが実は今、来ている。そここのところに変化をさせると非常にハレーションがある。あるいは玉井は何やっているのか、と言われる。そのことも覚悟しながら、低負担高福祉から中負担中福祉へ変えていかななくてはいけない。あれもこれもから、あれかこれかに選択をしていかななくてはならない時代になってきていると認識をしていただかないといけない。私たちの時代は良いが、この先、子供、孫の時代にこの徳田・田滝をしっかりと、持続可能な暮らしができるのかを我々行政は見ていかななくてはならない。そのことを承知していただかなくてはならないので、この部分は丁寧に説明していこう、と言っている。

先ほど会長からもあったように、この地域づくりも、この先のことを目指してどういう風にしていけばいいかということをお皆さんの知恵をいただきながら作っていきたい。全てを行政が投げ出すではなく、一緒にまちづくりをしていきたいという思いなので、ご理解をいただき、限られた時間であるが、膝つめの話し合いをよろしくお願い申し上げたい。

2 市の主要事業について

(1) 主要事業の説明

【市長】 (参照別紙資料①)

(2) 質疑応答

【参加者】

寄り添いタクシーの利用率はどうか。

【市長】

2月からスタートしたばかりなので、実績がちょっと乏しいが、酷く言うとも使ってもらっていない。これはちょっと頭をいためている。この実績がでないと、これは不要なんだ、という割り切りをしていかななくてはならないので、もう少し、いろいろ皆さんと協議しながら使ってもらえるように工夫もいると思う。

3 地域課題①「地域防災対策」について

(1) 課題等の経緯等内容説明

【危機管理課長】 (参照別紙資料②)

(2) 意見交換

【参加者】

昨年の台風の被害で、確かに今まで起こったことのないような山崩れがあった。そういうことで非常に、防災というものをやっていかななくてはいけないという気がした。

また、先般、消防のホースの先が盗まれ、この徳田地区も盗まれているが消防の方はどうしているのか。

【参加者】

鍵のかかるところに一時避難させていただいている。

【参加者】

徳能では火事が起きているのでね。

【参加者】

本体から持っていくということだが、そこに置いていたら盗まれるので、団と西消防署が持っている。詰所の鍵のかかるところに置かせてもらっているので、火事があった場合にはすぐに行くようにしている。ご理解の程、よろしくお願ひしたい。

【参加者】

皆がより良い避難ができるような方法はないか。田んぼで仕事をしたり、企業へ勤めに行ったりしているが、そこで津波が、何メートルくるとかということがすぐにわかるような方法はないのか。電柱に、ここは海拔何メートル、いくらの津波が来ます、山崩れも想定できる、という風な表示があればいい。今現在、その表示があるのは避難所だが、そこまでたどり着けない。全ての電柱に表示があれば、避難できると思う。電柱は四国電力の管轄になると思うので、電柱の取替に来ている人に言ってみたが、全然進歩が見られない。年齢によって避難にはかなり差が生じるので、先にわかっていたら、人命の確保はできるのではないか。

【危機管理課長】

海拔の表示については、市内の電柱に、市の方で260カ所くらい表示している。

【参加者】

ただ足りない。

【市長】

何本やれば良いのかという話になってしまい、非常に悩ましい問題。ハザードマップの中に、浸水域があるので、目印になるところには、貼っていくべきだと思う。260箇所ですべてではないと思っているし、もっと効果的なことはないかと、いうところだが、徳能の方には貼らなくてもいいかと思っている。むしろ、土砂崩れや山津波の方を考えなくてはならない。予讃線のあたりや周桑病院の少し海側の方に表示を貼っていったほうがいいのは事実だが、一挙にはなかなか貼れないのもご容赦いただきたい。

【参加者】

想定外の津波や地震だったという風に、言い訳みたいな結果がかなり出ているので、そういうものも含めて今後対応していただけたらと思う。

【市長】

本当におっしゃるとおり、東日本大震災での津波も想定が3メートルだったのに、10メートルが来たということもあった。情報は非常に大事で、気象庁の予報を信じて逃げていたのに、飲まれている。目安でしかないが、おっしゃったように、ポイントポイントには貼っていく必要があるとは思っているので、少し検討させていただきたい。

【参加者】

各所にある「死ぬな、逃げろ、助けろ」というスチール製のロッカーには、防災用のものが入っていると聞いているが、どこの部署が設置したのか。

【危機管理課長】

市の危機管理課が設置している。

【参加者】

久妙寺の下のほうにある農村環境改善センターで、木工クラブに週3日間ほど行っているが、設置されてもう2年ほど経っている。改善センターの事務の方が鍵は持っているそうだが、事務所が閉まっている土曜日や日曜日にはどうするのか。

中身もわからないので、事務の方と一緒に開けたところ、立派な発電機や投光器も大きいのが3器、簡易のトイレ等が段ボールに入ったまま置いてある。まだまだ充実していかなくてはいけないと思うが、いざ、発電機ということになると、オイルもタンクも無い。あったとしても月に1回くらい運転して大丈夫か確認するのが当たり前だと思うが、それすらもしていない様子だ。大変なお金を各所に設置のために使っていると思うのだが。

【危機管理課長】

確かに周知が足りていないと思うので、皆様方に何が入っているかを自治会の会や、諸行事の中でお伝えしていかなくてはいけない。

ただ、その利用については、実際に使うのは市の職員ではない。皆様方が、避難所の運営や、必

要な時に使うためのものなので、周知をした後には、是非、いざという時に備えて地域で実際に訓練等していただき、地域の公民館や、改善センターにある市の道具も十分に使っていただきながら、訓練をやっていただきたいと思っているのでよろしくお願いします。

【市長】

自治会に定額をお渡しして、必須で揃えなくてはいけないもの以外は、皆さんが話して購入すべきものを決めていただいている。必須以外は皆さんが選択したものなので、防災倉庫の中に同じものが入っているわけではない。発電機が無い倉庫もある。置いたは良いが何も使っていない、箱に入ったままではいけない。16年の災害で大きな被害のあった戻川は、毎年、地域の防災士がリーダーとなり、「訓練をして、チェックして、動かして」を繰り返しやっている。

市民の皆さんの意識を我々も上げる努力をするが、一緒になって意識を上げていくよう、例えば消防団と一緒に地域防災士が、全自治会に防災士がいらっしゃるので、そういった皆さんにもリーダーとなってやってもらうように、改善していかなくてはならないので、皆さんと一緒にお願いしたい。

【参加者】

去年の大雨時に、警報が出て公民館から非難をしたほうが良いという連絡を受けたが、田滝の避難場所は徳田公民館になっている。これでは、家から出たら来る前に被害が大きくなる可能性があるので、その時は、徳田に行くよりも、田滝の集会所を開放したほうが良いと判断して、私が開放して、独居老人には個々に、もし避難するのであれば、消防団が迎えに行くことと連絡した。田滝の場合は、公民館ではなく、近くの集会所が良い、ということをも市の方も把握していただきたい。

【市長】

それはそのとおり。ありがたい

【危機管理課長】

連絡は、入っていた。

【市長】

それは看板もつけよう。そういうのは、もう待たなし。

申し訳ない。こういうことがあれば、チャンスなので言ってほしい。

【参加者】

西条市は、安全というか、平和ボケしているというか、災害に対して、まさかという感じだが、地震について、新しく整備されている丹原中央公園に、科学技術庁の敏感な地震計が設置されている建物がある。15年位前には、建物の横に看板があり、科学技術庁と書いて説明書きがあったが、現在、まったく見えなくなっている。

全国に集計されるような精密な地震計が備えているのを知っているかと、丹原総合支所へ行ったが、それ以上のことは進まなかった。今回、整備される一画の端のほうにあるが、あれはまさか壊すことはないと思っているが、西条市も全国とつながっている発信基地があるということをもっとPRして、全国と西条市との意識を若い人たちにも持ってもらうことも大事じゃないかなと思う。まずは是非、あの看板をまず綺麗にしなければいけない。

【市長】

もっともだ。これは、おっしゃった部分だけではなく、例えば名称や、西条市が誇るすべての文化財等、消えているところがあれば、確実に手入れをしていくという指示を出させていただくので、先ほどご指摘のあった部分も含めて、今後、見直しをしていく。

【参加者】

防災の面と地域づくりと両方重なってくるのだが、私の地域では、倒壊しそうな古家の道路際の瓦が落ちそうな屋根があるが、これをどうしたらいいのか。持ち主も、その息子も亡くなられて、その孫たちが遠くにいて、結局、誰が相続してどうなっているのかさっぱりわからない。行政はご存じだろうが、相続を受けた状況の中で、できるだけ早くアプローチしていただき、何か対応しないと、通学路である道路際なので、地震等で何かがあった時にどうにもならない。

また、地域づくりという意味合いでも、そういう家が何軒も見えると、住んでいる方から見ても、地域全体が冷めてくる。雰囲気づくり的に良くない。

四国中央市が不動産会社や、銀行や、行政みんなで、一つの方向付けを検討されていると聞いた。

是非、西条市も何か取り組んでいただき、我々も実際にどうしたらいいのかを相談させていただけたら助かる。

【市長】

ブロック塀と一緒に感じる感覚だが、地域にお願いができるのであれば、例えば、橘校区では防災マップを皆さんが協議して、「ここが危ない」「この家が危ない」というようなことをリストアップしている。そうすると避難路はこうなるとか、このような話を机上で行った上で、実際に歩いてみて、地域をチェックしていただきたい。

そして我々は、所有者不明を追いかけていき、本当に危ない家であれば最終的には取り壊しとなっていく。そうできるような家かどうかを、建設部を含めて見ていかななくてはならないので、リストを頂戴し、市でもピンポイントに市内調査する。

おっしゃるとおり、地域づくりには、本当に影響があると思う。私の後輩が、花をいっぱい、市民の皆さんと一緒に育てて、地域に置いていいたら随分、町が変わると話していたが、そういったことにも繋がると思う。老朽家屋が沢山あるところに、移住どうですかとは言えない。すぐにという話にはならないと思うが、しっかり記録させていただく。

4 地域課題②「徳田地区の地域づくり」について

(1) 地域からの提案説明

【徳田地区自治会長】

先ほど、挨拶のなかでも申し上げたが、当地区では、田滝地区が先陣を切って実施をしている。そういう中で、徳田地区においてもやっていくとなると、地域の皆さんに主旨をよく理解していただかなくてはということで、今日は提案させていただいた。田滝地区の自治会長もおいでるので、何かあればご意見いただきたい。

(2) 意見交換

【参加者】

いの一番に手を挙げ、先生にもお越しいただいて、地域づくりに関する会を3回した。

遡ると、平成16年に田滝小学校の子供が1桁になることに、地域住民が危機感を持ち、自治会、前会長、校長先生、役場の方々の協力のもと、「明日の田滝を考える会」を立ち上げた。田滝から子供が増えないのであれば、よそから呼ぼうということで、まず田滝を知ってもらおうと収穫祭を始めた。おかげで、収穫祭には700名余り来て賑わっていただき、ある程度の年数は、子供が増えたこともある。その時には、松山の幼稚園のほうまで案内もし、多少の効力はあった。

それと並行して学校の通学校区、校区外通学の認可をお願いし、前会長、校長のご尽力を経て認可を得て、何名か来ていただけた。

しかし、10数年経つと、少子高齢化が急激になり、その効力が薄れたというのが強い印象。

そこで、市が応援してくれるということで、講演を聞きに行き、玉井市長から後押しをいただき、手を挙げさせていただいた。

確かに「明日の田滝を考える会」を立ち上げたときにも、若松先生という先生を講師にお呼びしたが、1回の講演料がビックリするほど高い。今回、お金がかからないと言うのでチャンスと思った。何か、行動を起こして頑張っていれば、市長も人の子、行政も人の子、目を向けてくれる。これからも続けていきたいと思っている。

先生の話の聞いていると、地域づくりは、いっぺんには変わらない。人の心を同じ方向に向けさせなければいけない。考え方を変えていかななくてはいけない「自己変革」という言葉が一番印象に残った。そういう風に持っていくのであれば半年やそれくらいでは、ちょっとできない。長いスタンスで変えていかなければならないのではないかと私は考えているので、この後も、市長、よろしくお願ひしたい。

【参加者】

おっしゃるとおり、地域づくりは、今のままではいけない。気持ちを変えていかなければいけない。

先ほどの防災の話にもあったが、「自助、共助、公助」という言葉がある。これも地域づくりにつ

ながるような言葉ではないか。まず、自分達の地域は自分達で守っていかなければいけないと思う。

【市民協働推進課長】

これから人口が減ってきている中で、今までどおりにはできない状況になる。自分たちが住んでいる地域を自分たちで持続可能な暮らしを守っていくことを目指している。

【市長】

無理にやらなくてもいい。もう面倒くさい、もう放っておこう、徳田はこのままで良い、と思うのであれば、我々は強制しない。市が強制してまちづくりをしても、おそらく長続きはしない。

田滝が頑張っているのを、様子見する。田滝がやってみて、良かったら、じゃあ真似しようかでも良い。そこから、踏み出す勇気とエネルギーがいる。何でこの年になってエネルギーをそんなに outsake なくてはいけないのか、と思われる方が多いと思うが、自分の子供が、ちょっと若い人が、あるいはPTAの、あるいは女性の力を、と言うような、そんなちょっと違う発想、違う角度からアプローチをしていかないと、行動に移すには、必ず刺激がいる。

たぶん田滝では「危機感」だったのではないかなと思う。徳田の皆さんが危機感を持つか持たないかに懸かってくるが、ちょっと5年くらい先の姿を描いたら、どうだろうか、と考えて欲しい。我々行政はしっかりサポートをしていくことを、やらせていただく。

ノートライ、ノーチェンジ、トライしなければ変わらないということ。今、田滝のチャレンジを、少ししてもらいながら、やらなくてはいけないと思った時に、手を挙げてもらってもいいと思う。エネルギーが本当にいる、その覚悟がいる。その覚悟を持った地域をサポートするのが当然の行政の仕事だと思うので、エネルギーを出すときは言っていたきたい。

【参加者】

3月1日に、橘校区の見学をさせていただいた。橘校区は14地区、大町が40地区。それがまとまっている。徳田では7地区だが、まとめる方法のヒントがあれば。また、感心したのが、若い人がリーダーになっていること、女性が半分くらい出ていること。一昨日の会でも高校生が4、5人来ていた。やはり若い人の声が聞きたい。

【市長】

丹原の自治会のやり方、小松、東予もまた全然違う。西条の中でも違う。西条の大町は、連合自治会が取り仕切り、下に落とす方法だったが、それを壊さないといつまでたっても役員は変わらず、上から落とすやつを、やるだけになっていた。しかし、それは本当に地域づくりだろうか。長年、その方法をしてきた連合自治会長は、そこのバリアを解くのに相当勇気が要った。先輩から、怒られながらも、それぞれの役割で、皆がこの地域を担っていく形に変えていこうとした。連合自治会長も本当に辛かったが、勇気だったと思う。

徳田の7地区、一人ではしんどいので皆でやろうということ。例えば、PTAのお父さん、お母さんも巻き込んで、どうしていこうかと言う話ができる。自治会長もずっとやるか、1年ごとに変わるかみたいなことになっている。少し、腰を据えて、老いも若きも男も女も、世代間を超えて、職業間も超えてやっていくことが必要なので、一步踏み出せるか出せんか、というところだと思う。

【参加者】

地域が違ったら、考え方なんかも違うから参考にはならないと、先生にも言われた。

【市長】

そう。今の状況であれば、ギャラは不要なので、先生が徳田に入ってくることは本当に簡単なこと。みなさんと、膝詰めで世代間を超えて、これからこの地域を守っていくにはどうしたらいいのかアイデア出しをするところからスタートだと思う。徳田らしく、でいい。

【参加者】

最近、ちょっとうれしいことがあった。社会福祉協議会の徳田支部から入学生にちょっとしたプレゼントを毎年させてもらっている。そこで田滝に聞きに行くと、3名入学生が入ると言ってくれた先生が、それは笑顔で、本当にうれしそうに言ってくれた。全部田滝の子か。

【参加者】

違う。

【参加者】

徳田小学校は初め9人と聞いていたが、今日、プラス1名で10名になったと聞いた。その後

の1名は、県外からの移住で、西条がすごく良い、西条の中でもこの地域がいいと言われたそう。先ほど市長からも、西条が住みたいところ、四国の中では1位だったと報告があり、なるほどと思った。その方も、はじめは、空き家を利用して住まわれるみたいだが、いずれ、ここで家を建てて住みたいということも学校の方から聞き、社協としては本当にうれしいプレゼントになった。

【市長】

たぶん徳田小学校に入ってくれたのは、2年連続じゃないかと思う。今回、埼玉からくる方、その前には、遠隔合同授業について、こんな田舎でICT、情報通信技術を使った教育していることが素晴らしいということで、恐らく、東京からも来ていただいている。

行政として出来ることは、そういったことだろうと思うので、東京でも営業活動している。東京向けの番組で、西条を売り込みに、テレビ局まわりもしている。テレビに取り上げていただき、西条の良いところを知っていただく、また、移住に手を挙げてくれた人には、一人ずつ丁寧なサポートをしている。

そこで、先ほど言った、空き家を貸せると手を挙げてくれるところが少ないので、これをもっと作っていかなくてはいけない。先ほどおっしゃっていただいたように、最初は空家からだが、次は家を建てようかとか、そんな話になっていく、そんな形の流れは、少しずつだが、出来てきている。

【参加者】

地域づくりの話は非常に難しいところもあると思うが、私も、田滝自治会長と一緒に、橘や大町へ行って、見せていただき、それぞれで若い人が参加して、地域のことをいろいろと意見交換し、良さを見出していこうという方式でやっているようだ。まずは、自治会長なり、各団体の方が、徳田地区も進めていくのであれば、これからの普段のお付き合いの中でもお話をいただいたらと思っている。

【市長】

自治会長の思いは、尊重したい。橘には若い人がいて、自分たちのところにはいない、と思われるかもしれないが、徳田は徳田で、親父世代から徐々に子供世代に話を広げていってはどうか。少し若い世代が集まった時に、市の担当が話に来ると思うので、それで様子見るのもいいか。

【参加者】

やはりすぐにはできないと思う。自治会活動の中でも、それぞれの地域で、こういう話があったということ、若い人に聞いてもらったら、いろいろと意見がでてこようと思うので、そこらへんから進めていったらと思うので、よろしく願いしたい。

【市長】

市の職員で若い、徳田を愛している連中がいるので一緒に話を進めてもらいたい。

【参加者】

やったからには、結果を出さなくてはいけないのがプレッシャーだが、まあ長々とやる。

【参加者】

地域づくりについては、皆さん、徳田地区の友達とかそういう人にも、今日のお話をさせていただいて、みんなに知ってもらうことが大事だと思うのでよろしく願いしたい。

5 その他（地区における課題及び要望に対する回答）

【シティプロモーション推進課長】（参照別紙資料）

6 まとめ・閉会

【市長】

予定の時間30分超えてしまい申し訳ない。進め方も手探りだが、このような形で、市民の皆さんと一緒にあって、まちづくりを皆さんの声を大切にしながら、一つずつ解決できることを考えていく。職員にもよく、出来ない理由を言う前に、どうしたらできるかを考えていこうと言っている。

本当に暮らしやすい西条にしていくためにという思いで、職員も一人一人、熱い思いをもって臨んでいるので、これからもよろしく願いしたい。

【徳田地区自治会長】

防災については、先ほども申し上げたように、徳田地区も昨年のような災害が起こっている。危

機管理課から説明があったが、土砂災害の区域にもなっている。まちづくりについては、今後の課題とし、田滝地区を横から見させていただきながら、徳田地区も進めていければ良いのではないかなと思うので、今後ともよろしく願いたい。

玉井市長始め、各部長、大変ご遠方までおいでいただき、お礼申し上げます。このような会がないと、なかなか市のことも、普段はあまり気にしないところがある。今後ともよろしく願いたい。

(閉会)

<タウンミーティングの様子>

